

大学DXソリューション 「Campus-Xs」ご提案

富士通 Japan 株式会社

今こそ、大学変革の時。

世界は今、AIとデータが主導する「第4次産業革命」の最中にいます。

日本の大学には、この激動の時代を生き抜くために
「**全学的な質的変革**」が喫緊に求められます。

貴学がこの転換期において、組織の縦割りを乗り越え、
「**大学DXをリードし、変革を推進する**」こと。

これが、日本の知の拠点としての貴学の存在感を高め、日本の教育の未来、
持続可能な社会を共に築き上げるための、今、最も重要なアクションです。

私たち富士通は、
「**イノベーションによって社会に信頼をもたらし、
世界をより持続可能にしてい**く」というパーパスに基づき、
貴学との共創を通じて、この大学変革へ力強く推進し、
国内の教育・研究を共に変えていきたいと考えています。

持続可能で質の高い教育の実現に向けて



「教育の質」を高める政策（文部科学省）

2040年に向けた 高等教育のグランドデザイン

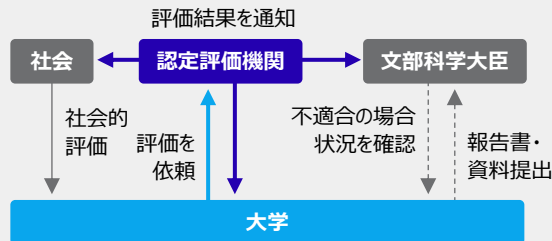
- 2040年時点での展望に基づいて、高等教育が目指すべき形を示した答申
- 高等教育を「**学修者本位の教育**」へと転換し、大学を「**知と人材の集積拠点**」とするための方針を提示している

我が国の「知の総和」向上の未来像 高等教育システムの再構築

- 社会や高等教育を取り巻く時代の変化を見据え、国の高等教育の将来像をまとめた答申
- 教育研究の質を高め、規模を適正化し、地域や経済状況に左右されない学びの機会を確保して、**持続可能な高等教育の実現**を目指す

認証評価制度

- すべての大学・短期大学・高専に対して、定期的に認証評価機関による第三者評価を受けることを義務付けたもの
- 第4期の認証評価では、**学修成果を評価の中心**に据え、それを保証するための内部質保証体制の実効性を重視している



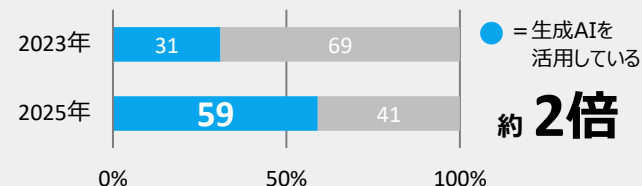
加速する大学DX

DXレポート

- 経済産業省が公表している、DXの現状や推進に向けた方向性などをまとめた報告書
- 日本の企業がDXを実現するために必要な課題を整理し、具体的な対応策を提言

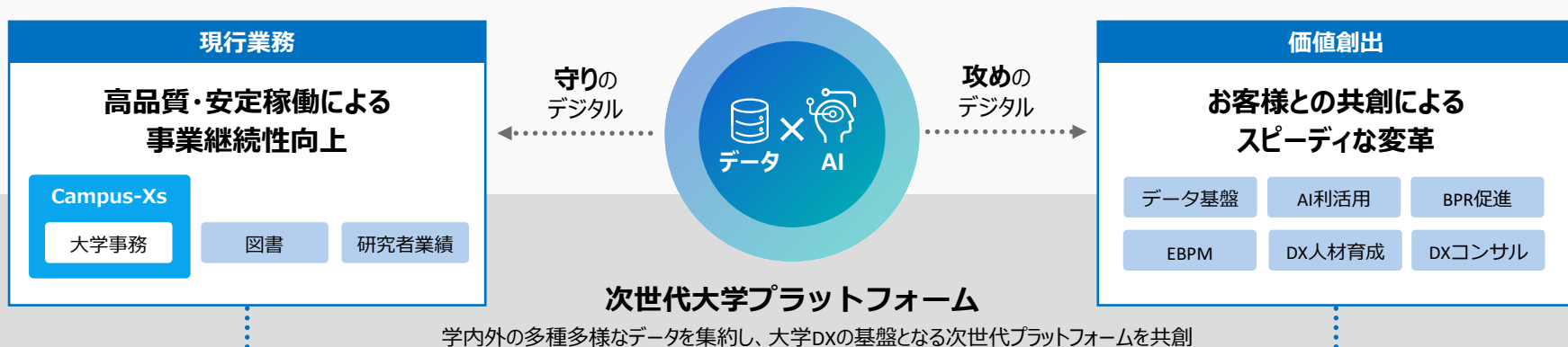
生成AIを活用している大学

- 全国の大学のうち**6割**が**教育に活用**しており、成績評価や入試で使う先進例も出てきている



2025年12月9日 日本経済新聞 全国学長アンケートより

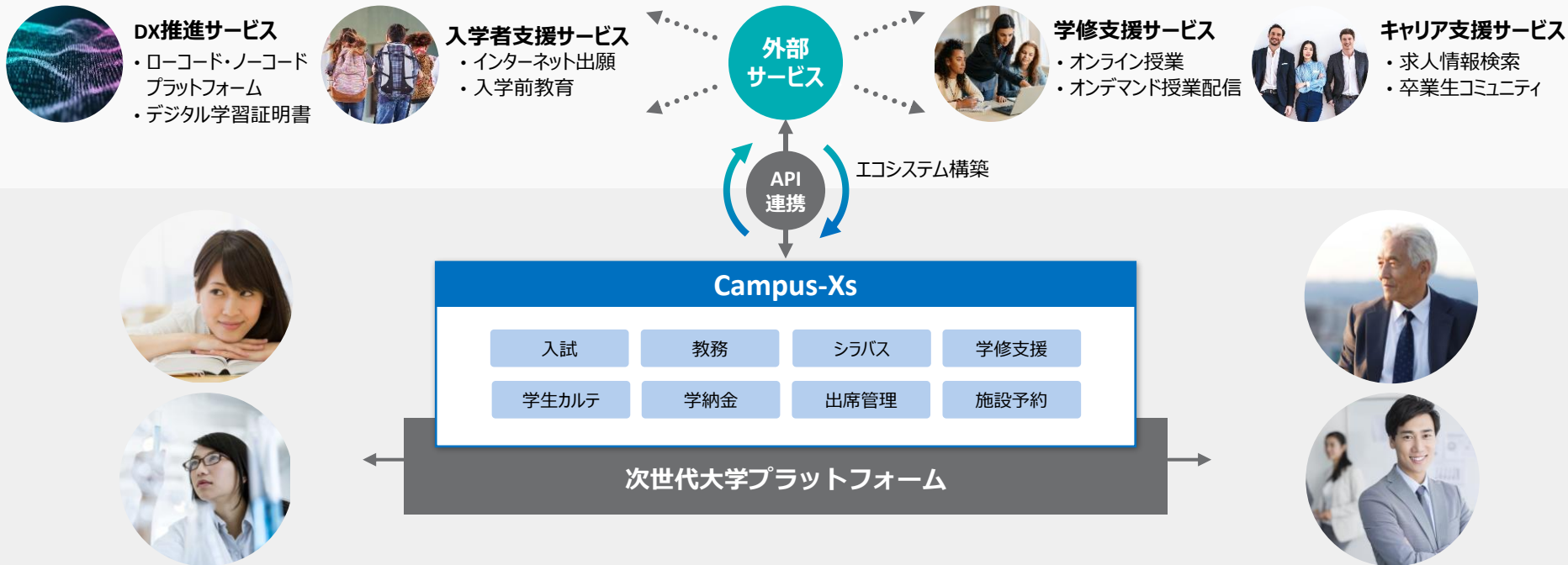
データとAIを中心に、未来を拓くプラットフォーム



「現行業務」と「価値創出」の領域を融合し、攻守両面のアプローチにより変革を加速



Fujitsu 大学ソリューション「Campus-Xs」



安心・安全な基幹ソリューションが様々なサービスと連携
多様なニーズに柔軟に対応し、データ活用により新たな価値を創造

Campus-Xsが創出する 新しい価値



学修成果の可視化によるきめ細やかな学生サポートの実現

課題

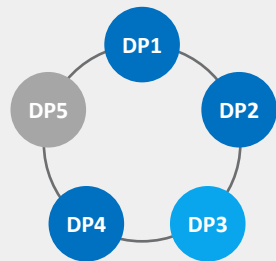
- 様々な学生データが最新化・関連付けされておらず、個々の学生の正しい状況の把握が困難
- ディプロマポリシーに対する達成度の把握ができておらず適切な指導ができない
- 教員・職員が個別に学生に対応しており、継続的・組織的な学生支援が困難



学修達成度の可視化

- 大学の掲げたディプロマポリシー（DP）とカリキュラムマップを紐付け、学生の成績評価を基に学修達成度を可視化
- 個々の学生に合わせた教育指導や、学生の自主的な学びをサポート

ディプロマポリシー設定



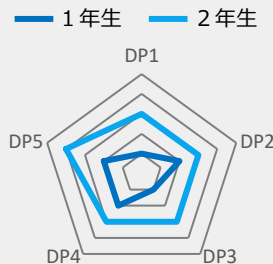
ディプロマポリシーの達成目標として、学生が身につけるべき能力を設定

カリキュラムマップ設定



カリキュラム単位で、DP、DP達成度係数、科目を紐づけ

学修達成度の可視化



成績に基づいて、各学生の学修達成度をグラフで表示

- 学生の成績評価を基に、学修達成度を集計・表示
- 学生は、学年単位での**平均値と比較しながら自身の達成度を確認し**、カリキュラムマップを参照することで伸ばしたい能力に必要な科目を確認できる
- 教職員は、指導学生の学修達成状況や強み・弱みを確認し、具体的なアドバイスをしながら履修指導ができる
- 学生カルテの機能の中で学生のデータを一元的に表示したり、所見情報として教職員が面談の記録などを残すこともできる

スムーズな授業運営

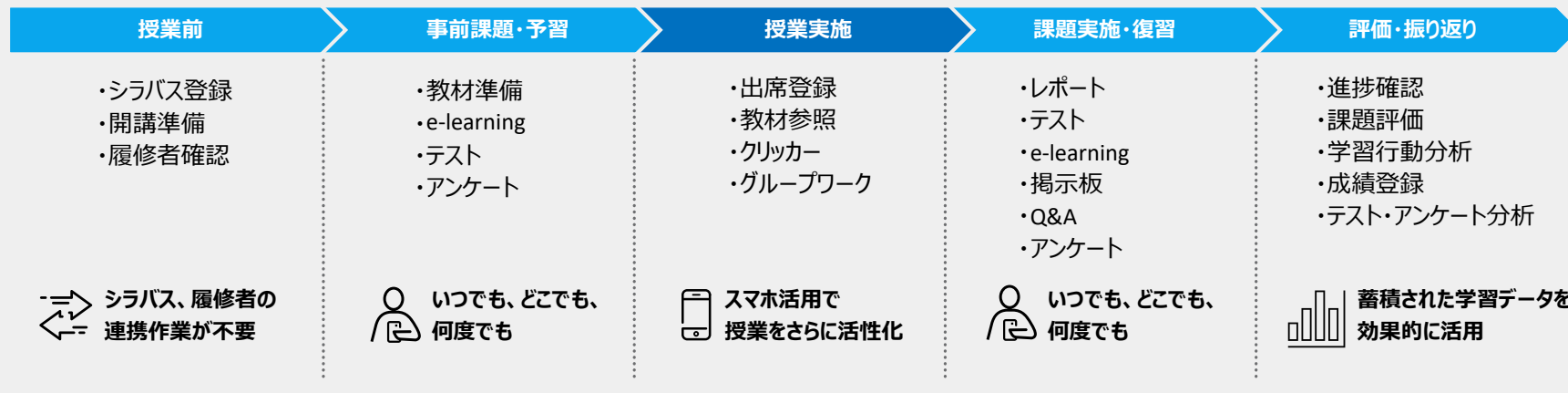
課題

- ・教務システムとLMSの連携に手間が掛かる
- ・事務とLMSでログインする際に、それぞれIDとPassの入力が必要



事務とLMSの統合により、授業運営をトータルでサポート

- ・事務とLMSの統合により、**煩雑な連携処理が不要**に
- ・LMSの全機能も**レスポンスデザインに対応**。PCだけでなく、**スマートフォンやタブレットからも利用可能**
- ・LMSに蓄積された**アクセスログや学習データを活用**し、学生の学習状況を把握して**学生一人ひとりの学びを支援**



学生サービスの向上

課題

- ・メールで重要なお知らせが届いても気づかない
- ・パソコンではすべての機能を使えるが、スマートフォンでは一部の機能しか使えない



スマートフォン対応

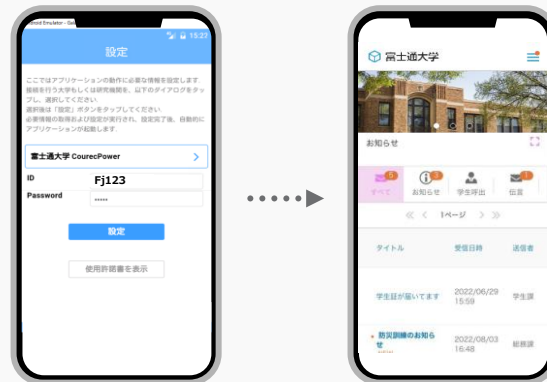
プッシュ通知

- ・ネイティブアプリに対応し、プッシュ通知によるメッセージ配信を実現
- ・必要な情報のお知らせを、タイムリーに確認できる



マルチアクセス

- ・アプリに設定したアカウントで自動サインイン。毎回IDとパスワードを入力する手間が不要に
- ・レスポンスデザインに対応し、PC版と同様の機能をスマホやタブレットで利用可能。24時間いつでもどこでも便利にポータル機能を利用できる



【活用事例】

アンケート回収率

約40%増

長年の実績と豊富なノウハウに基づく「安心」のサポート

課題

- ・トラブルの予測ができず、トラブルが起きてからサポートを受けている
- ・夜間に問い合わせができない



サポートセンター

長年の実績から、お客様の運用に応じたサポート事例・ノウハウを豊富に蓄積しており、**トラブルの迅速な解決や回避策の提供**が可能

トータルサポート

お問い合わせいただくだけで、**トラブルの原因の切り分けから、復旧手段の提供・回避策の提案まで、一貫して弊社が実施**

高セキュリティ

ガイドライン準拠の環境・運用規定により、セキュリティを遵守

- ・情報漏洩対策
- ・セキュリティ教育・個人情報保護方針



サポートサイト

Campus-Xsをご利用中のお客様に参加いただけるサポートサイトを運営し、業務に役立つ様々な情報を提供

- ・エンハンス情報のお知らせ
- ・24時間365日チャットボットでの問い合わせ対応

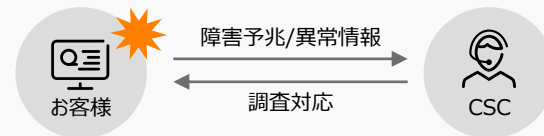


プロアクティブサポート

膨大なデータからお客様の「傾向」を解析し、問題を未然に防ぐ取り組みを推進

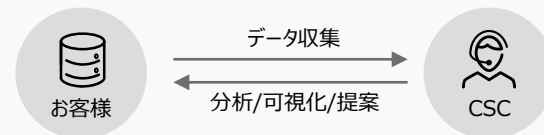
リモート通報

障害予兆/異常を検知すると、CSC*へ自動通報。**トラブルを未然に防いだり、早期解決を実現する**



運用分析

運用データの収集、可視化、分析により、**運用課題の解決やサービス品質向上に貢献する**



長期利用を支えるコミュニティ活動

課題

- ・異動の際に業務の引継ぎが大変
- ・他大学の運用がわからない



Campus-Xsユーザ専用コミュニティ

会員制のコミュニティサイトをハブとして、動画・資料マニュアル等教育コンテンツの提供や、勉強会等のイベントを開催
Campus-Xsをより活用いただけるようお客様同士の情報交換の促進やサービス利用にあたっての習熟度向上を目的に、情報発信、交流の場をご提供

イベント

業務課題等テーマに沿った意見交換、お客様同士の交流や弊社からのエンハンス情報の共有などを実施



教育コンテンツ

Campus-Xsの操作説明動画や、活用Tips等の教育コンテンツを提供



情報提供

富士通グループの製品情報や政策動向・補助金、セミナー等のイベント案内、導入事例等の情報提供



勉強会

業務課題やエンハンス機能など、テーマに沿った勉強会を開催



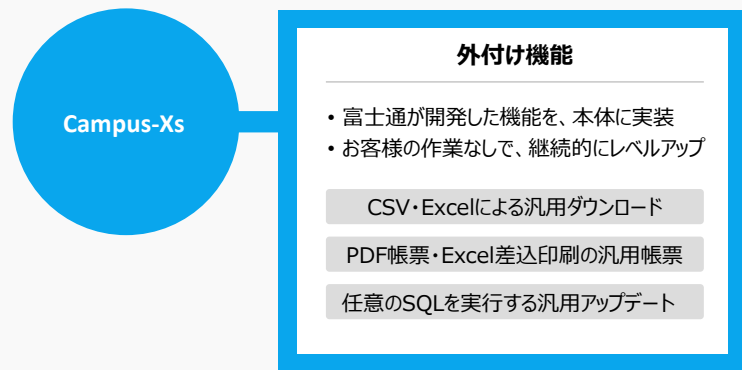
業務の標準化

課題

- ・ カスタマイズによるコスト増
- ・ 機能レベルアップが困難
- ・ 業務が属人化（当時の担当者しか背景や詳細が分からない、など）

外付け機能の実装

- ・ 富士通が開発した追加機能を、Campus-Xsに組み込んだ形で提供
- ・ 実装時にプログラム開発を伴わず、本体に影響を与えずに機能を追加できるため、コストや期間を抑えた導入や、導入後の継続的なレベルアップが可能



内製開発機能との連携

- ・ ローコード・ノーコードの開発ツールを使って、お客様が内製開発した機能等と Campus-Xsを連携して利用することもできる
- ・ お客様ご自身での開発となるため、固有の要件に合わせた機能を安価で実現したり、柔軟なカスタマイズやクイックなセルフメンテナンスが可能



ご提供について



サービス利用の考え方

「所有」から「利用」へ

従来のパッケージ版から、お客様の負担の少ないSaaS版への移行が進んでいます。いずれもサブスクリプションモデルでご提供となります。

料金プランと対応サービス

	パッケージ版	SaaS版
料金プラン	月額	月額または年額
稼働環境利用	-	○
サービス利用	○	○
サービス保守	○	○

作業内容

	パッケージ版	SaaS版
製品本体のカスタマイズ	△	-
レベルアップ	△	○
スケーリング	△	○
システム監視	△	○
OS・ミドル更新	△	○
バックアップ	△	○

○：サービス内容に含まれる
△：有償対応もしくはお客様で実施

利用料の決定要素

従来のシステムである「Campusmate-J V3」から、料金体系を変更します。

これまで（Campusmate-J V3）



これから（Campus-Xs）



Campus-Xsのサービスラインナップ

No.	必須/選択	サービス名	サービス概要
1	いずれか 必須	大学事務 基本サービス (※1)	学生や教職員情報の一元管理、学生の健康診断管理等を支援します。アプリを使ったお知らせ通知やWebポータルによる大学内のコミュニケーションやWeb上での各種申請、アンケートの実施が可能です。
		学修支援 基本サービス (※1)	大学の授業運営を効果的に支援するLMSです。学習から成績評価までのプロセス全体の「見える化」により大学の教育力向上に貢献します。
2	選択	入試サービス	多様化する入試制度へ柔軟に対応しながら、信頼性の高い入試業務を実現します。
3		教務サービス	柔軟な授業の設定や、多様なカリキュラムに対応した履修・成績情報の管理が可能です。Web上での履修登録や、成績登録など授業管理を支援します。
4		シラバスサービス	多様化する授業に対応したシラバスの作成や検索に対応し、より質の高い授業運営を支援します。
5		出席管理サービス	出席情報の一元管理により、さらなる授業の活性化と学生指導の充実を実現します。
6		施設予約サービス	授業情報と連動した教室・施設予約に対応し、学内リソースの有効活用を実現します。
7		学生カルテサービス	部署の枠を超えた学生情報共有により、学生の個性に応じたタイムリーなサポートを実現します。
8		学納金サービス	多様な徴収パターンの設定に対応し、学生情報と連動した学納金徴収管理を実現します。
9	SaaS版のみ 選択	ストレージ追加オプション (※2)	学修支援システムのストレージ追加が必要な場合のオプションです。
10		SINET接続利用サービス (※2)	学内との接続にSINETを利用する場合に必要なサービスです。
11		IPSecVPN接続利用サービス (※2)	学内との接続にIPSecVPNを利用する場合に必要なサービスです。
12		SAML SP機能利用サービス (※2)	学認を使用してシングルサインオンする場合に必要なサービスです。

※1：SaaS導入の場合、プラットフォーム費を含む ※2：SaaS導入の場合のみ、選択が必要

Campus-Xs活用事例①



旭川市立大学様

SaaS型教務システムで、公立大学への移行準備と、システム刷新を同時に実現



段階的な切り替えで
システムの導入を実現



様々な情報を教務システムで
一元管理し業務効率向上

詳しくは[こちら](#)



平成国際大学様

SaaS型教務システムで運用負荷を軽減し、学生へのサポート基盤を構築



サーバーやシステムの運用・
管理の負荷を軽減



アプリによるプッシュ通知で
学生および教職員の利便性向上

詳しくは[こちら](#)



長野大学様

学生情報の一元管理と、学習行動の可視化により、個々の学びを的確にサポート



業務負荷軽減だけでなく
業務の属人化からも脱却



LMSで学習行動を把握し
学生への的確な個別サポート

詳しくは[こちら](#)



大阪体育大学様

Campus-XsとPost@edufeeの導入により、サーバー管理の負担を解消し、業務効率を向上



学納金徴収業務のシステム化による
業務負担軽減とコスト削減



保護者（保証人）ポータルの
導入により利便性を向上

詳しくは[こちら](#)



Campus-Xs活用事例②

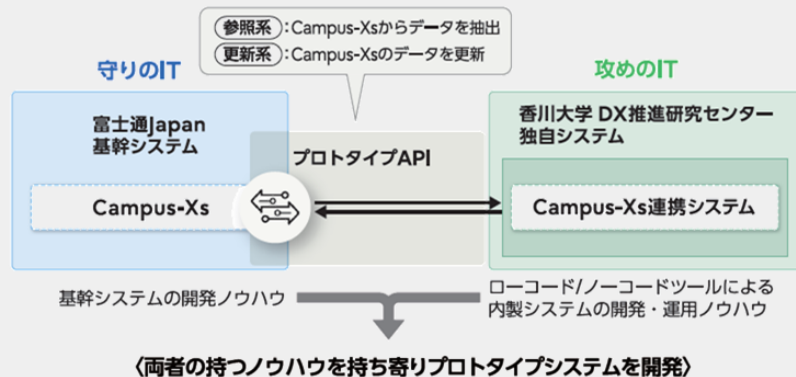
香川大学様 | ローノーコードを活用したプロトタイプ^oの共同研究・開発

詳しくは[こちら](#)



- ① Campus-Xsの教務データを容易に取得できる参照系API
- ② データの登録・更新が可能な更新系API

上記2種類のプロトタイプAPIを提供し、香川大学様が知見を有するローノーコードツールを用いて、教学データを活用したシステムを開発。



例) 大学ダッシュボードの開発

Campus-Xsに蓄積された教務情報を、APIとローノーコードツールで抽出・加工・集計し、ダッシュボードに反映することで、教育情報の公開プロセスを完全に自動化。職員がデータの集計や加工を行う必要がなくなり、教育情報をリアルタイムに確認可能。

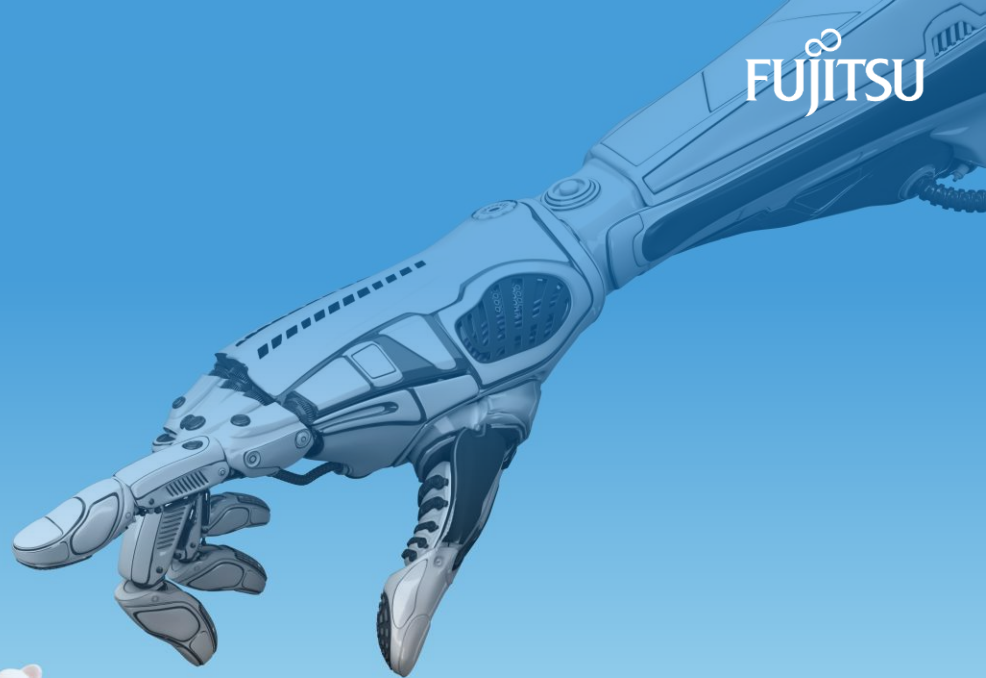


大学の変革を、共に

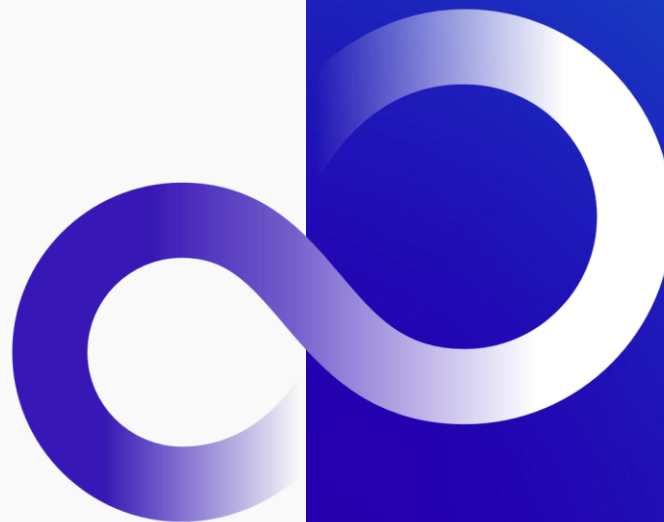
大学を取り巻く環境は急速に変化しており、
未来を拓くには大学と富士通、双方の変革が不可欠です

富士通は、これまでの知見と技術を活かし、
大学様との共創を通じて教育の新たな価値を創造します

日本全体の教育発展、そして社会課題解決の貢献に向けた
大学変革への一歩を共に踏み出しませんか



Thank you



＜お問合せ先＞

富士通Japan株式会社

Public&Education事業本部 ビジネス変革室

メール：fjj-univ-offering@cs.jp.fujitsu.com